

開門放燕飛

（祝文）
開門放燕飛
無雲萬事宜

無雲萬事宜

図版②『田園雜興詩帖』帖石の原石



図版①范成大の肖像彫刻



図版③『鳳墅帖』



「落ち穂拾い記」
范成大『田園雜興詩帖』
(下)

56

この「田園雜興詩帖」をあれこれ調べるも、范成大の詩文を収録した資料は多く存在するが、法帖としての資料を見つけないことはできなかった。20年ほど前に杭州に出かけた折に、当地の友人に、この范成最大の『田園雜興詩帖』のことを話したところ、蘇州の石湖の畔に范成大祠があると、翌日車で案内してくれた。祠に着いて碑らしきものを探すも見当たらず、最後に古風な建物にたどり着いた。入口に作られたばかりのような范成大の岩に腰かけた様子の大きな肖像彫刻があり、その上には「壽櫟堂」の額が掲げられていた。肖像彫刻の後ろには、大きな木製の衝立が置かれてあった(図版①)。中に入り、衝立の後ろ側に回って、驚いた。この范成最大の肖像彫刻が安置された部屋の周囲の壁に縦長の石碑らしいものが7基、ガラスで覆い詰め込まれていた。近づき確認すると見覚えのある伸びやかな『田園雜興詩帖』の書である。全部で7石、各石は、4段に分けられ、各段10行からなる。第7石の後半には、明人都穆等の跋も家蔵本と同じく見ることができた。『田園雜興詩帖』の帖石の原石は、蘇州の范成大祠の壽櫟堂に保存されていたのである(図版②)。家蔵拓と比べて帖石面にはある程度の破損が見られるが、どうしてこのような優れた書の拓が伝来してないのかわからない。家蔵の拓は、相当に虫損があるが、拓調などから、明末清初、日本の江戸時代初期のころのものと推測される。その後、范成最大の書が収録された珍しい法帖を見つけた。宋代に刻された『鳳墅帖』である。この中の『鳳墅帖続帖』の巻十と巻十一が范成最大の書を収録する。この宋拓の名帖『鳳墅帖』は天下に伝来するのは、この上海図書館本のみであるが、模刻の資料とした書が優れたものでないのか、『田園雜興詩帖』と比較すると明らかに劣る(図版③)。前号で一部紹介した宮内庁書陵部所蔵の「贈佛照禪師碑」(宋拓孤本)やこの『田園雜興詩帖』のような伸びやかな品格のある書とは、趣を異にする。その後もこの帖の資料を探していたところ、コロナ禍前に、上海の金石碑帖を研究する友人が偶然にこの拓の未装の整拓を入手したとして写真が送られてきた。(今回の右ページの主図版は、原寸で掲載するために、帖の中の「開門放燕飛」と「無雲萬事宜」を集字した。)

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

第75回毎日書道展開催

第75回毎日書道展が7月10日に開幕しました。今回は東京展特別展示として「墨魂の群像―毎日の書48人展―」を開催し、これまでの「巨匠」・「昇」に次ぐ毎日展を牽引して来た代表作家の第3弾の展覧となりました。

入賞審査は6月末、会員賞は7月3日、4日に文部科学大臣賞が決定しました。

- ・文部科学大臣賞
金子太蔵氏（近・詩）
- ・会員賞（本院関係）
西川翠嵐（漢字）

- 見越雪枝（かな）
- 鈴木英晴（近・詩）
- 浜口瑞香（大字書）

一條紅籬（前衛）他28名

今年 は表彰式に先立って島谷弘幸氏の講演（書における不易流行）が行われました。歴史を踏まえて令和の書を考えようというテーマです。日本の書の歴史を古代から中世、近世までをスライドにより解説、歴史の中に現代の書がある…と、墨魂の昂から巨匠、今回の群像へとつなげました。時代とともに書は変遷するが、残すためには計画的な取り組みが必要との言葉が印象

に残りました。

表彰式は7月21日午後1時よりザ・プリンスパークタワーで開催されました。今回は記念展のため、会員賞始め入賞者が若干増えたこともあって、役員を含め出席者は130人を超え、壮観でした。



グランプリ（会員賞）に輝いた方々

粛々とした表彰式後は、会場を芝パークホテルに移して4時から本院の出品者懇親会をにぎやかに行いました。今回展は初めて5部門の会員賞に恵まれ、世代交代を暗示するかのごとく若手の晴れやかな英姿を頼もしく感じました。U23や一般入賞者も感激一入、また今回残念だった方は次回に向けて、念ずれば花ひらく…です。5部門を有する本院ならではの幅広い交流が、書作にいい刺激を与えてくれることを願います。

コロナ禍以前は、毎年の毎日書道展東京展終了後、その年の会員賞・毎日

賞受賞者の中から、各部各会派から選抜されたメンバーが書の研修視察団として訪中をして学書を兼ねた友好を深めて来ました。今年は、2つの団が帰国展から時を経て再び展覧会を行いましたので紹介しておきます。

敦煌松竹千会展

敦煌松竹千会展は、第70回毎日書道展会員賞・毎日賞受賞者から選抜されたメンバーです。

団長 松井玉箏

副団長 千葉蒼玄

秘書長 竹下享子

団員（本院関係）九條純代・茂木絢水

会期 7月18日～20日

アートサロン毎日

大丸倶楽部書展は、第62回の会員賞・毎日賞受賞者による選抜されたメンバーです。

団長 辻元大雲

副団長 丸尾鎌使

団員（本院関係）武山櫻子・島田白露

会期 7月22日～27日

アートサロン毎日

それぞれ、展覧会初日に小宴を開き懇親会を行いました。コロナ禍以後、訪中団は結成されていません。

坂本素雪理事

「坂本素雪二〇二〇の書展」開催

7月25日～28日、本院理事坂本素雪先生が、セントラルミュージアム銀座

にて「線と空間…そして叙情」というテーマで個展を開催しました。



感情が昂り、逆さ文字が入った自作詩

書業60年、日頃から空間の美しさとアンバランスの美を追求して、本院の現代詩文書作家の中でも傑出した存在の素雪先生ですが、満を持しての個展は大作45点余・小品20数点という華やかな展示となりました。

猛暑続きではありましたが、開催前日内覧会、その後小宴、翌日は室井玄聳先生、原田凍谷先生を迎えて（司会は千葉蒼玄先生）のトークショーが行われ、190余名の方が参加しました。

一作一面貌の大作はその表現、表情の違いが圧巻で、先生の幅広い学書から生まれた強い情念の噴出として、観覧者の記憶に残る個展となったことと思います。

これからの益々のご健筆をお祈りします。

楷書1 鄭羲下碑

中国山東省の雲峰・天柱・太基山に北魏の鄭道昭が刻した摩崖碑があります。摩崖碑とは、天然の巨石や崖を平らに磨いて碑面にし、文字を書丹（じかに朱墨で書きつける事）して、それを刻したものです。雄大な自然と融合し、線にはゆったりとした伸びやかな筆勢があり、雄大な書風の楷書です。

臨書にあたっては、

- 1、鄭羲下碑をじっくり鑑賞して、その書風と同調し、ゆったりとした心持ちになることが大切。
- 2、執筆法、腕法、姿勢も大きく連筆ができるように大きく構える。
- 3、大きめの筆に、墨をたっぷり含ませる。淡墨や、滲みも効果的。
- 4、起筆では筆先を包み込む蔵鋒にし、中鋒（筆先が線の中心を通る）でゆっくりと送筆し、円味のある、伸びやかで温かい線を引く。
- 5、字形は懐ろの広い構えで直勢（縦画が互いに平行になる）に作る。

素朴で温もりのある書の良さを味わい、臨書しながら、優しくゆったりとした心持ちになって下さい。そしてその技法を生かして、做書（書風を真似して別の語句を書いてみる）もしてみましよう。做書は創作への第一歩です。

ユーチューブ『筆のサロン』に臨書と做書の関連動画を用意しました。是非参考にして下さい。左のQRコードでアクセス出来ます。



海内雄大



基礎基本講座

印を創るに当たって前にお話し致した字法の次に重要なのは章法（点画の組み立て方による全体としての文字の形、とともに文字の大きさの度合いなど）です。

決められたスペースに、いかに文字を入れ込むか。文字の大小を考えなくてはなりません。

大変なことではありますが、これが、篆刻の醍醐味でもあると思います。

文字自体も画数の多少などによってより良い組み立て方が心掛けていかないと、印自体が窮屈に見えたり、そうでなかったり致します。その辺りを考えるのも篆刻の楽しみかと思えます。

その習得の方法として、古来、言われている習得方法の一つが篆刻ではないでしょうか。

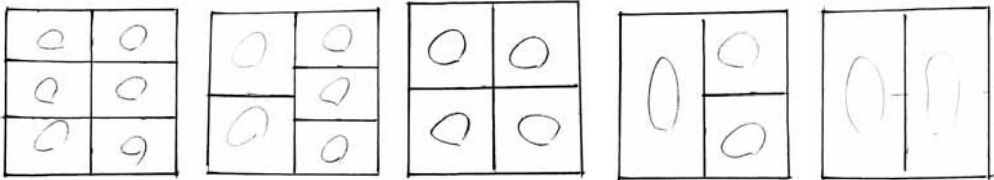
所謂、書の習得方法の一つ「古典の臨書」にあたります。古来の印人の作品を観察し、所謂、形臨意臨にて、習得する勉強方法です。

これは次回以降の習得方法の解説の際に、また、改めて述べたいと思います。

今回は、章法の大きな方法として、決められたスペースにいかに入文字を入れ込むか、です。

何文字、文字を入れ込むか、図は入れ込む文字数により、これくらいの種類が相当ではないかと思ひ、示しました。参考に、なさってください。

右下から、2文字、3文字、4文字、5文字、6文字の字入れの入れ方です。



書道芸術院

令和の群像 (2024)



石川 溪華

「書は人なり」

幼い頃から字を書くことが好きだった。本格的に書道をはじめた高校生の時、佐藤雲溪先生に自由に伸び伸び書ける環境で指導いただいた。

書に楽しく向き合えた時期、上手になりたいと苦しんだ頃、指導者として相応しいか迷った時、それぞれの場面で尊敬できる素晴らしい先生方や共に研鑽する仲間から直接に間接に沢山のことを学ばせていただいた。

先生と勝手に思い込み、ご挨拶するのが精一杯だったが、先生とは妙なご縁で親しくなった。

まだ幼かった娘と先生の書展に伺った際、娘が「佳」について質問したのがきっかけだった。その後、娘に詳しく説明した手紙を下さり二人が文通を始め、私も親しく話せるようになった。

竹田先生は川崎白雲先生から指導を受けたときの話聞かせて下さった。白雲先生といえば恩地春洋先生、小伏竹村先生を始め玄遠社創設の先生方の師匠に当たる雲の上の方が、

「臨書は全臨するより4文字を100回書く方が身につく」「自分の人格以上の書は書けないから、うんと勉強して知識や心を養

い自分を磨くこと」そして「直ぐ手の届くような師になるな」など。

先生ご自身そのような教えを実践され、ありとあらゆることに造詣が深く、書に対してどこまでも真摯で情熱をお持ちだった。

書以外にも様々なことを学んだ。ある時、熊谷守一の著書「蒼蠅」をお借りしたことがある。読後、私には守一と竹田先生の生き方が重なって見えたが、そのことはとうとう告げられなかった。

いつだったか「生まれ変わっても書道をなさいませうか」と尋ねてみた。「書はいいですよ。生まれ変わっても師は川崎白雲・書友は富岡宏岳と決めているんです」とにこにことお答えになった。

娘が嫁いだ時には、正岡子規が夏目漱石の結婚祝い贈った句「葉葉たる桃の若葉や君娶る」と、三家が睦まじく過せるようにと「鼎」の2点の作品を頂戴した。

今頃、黄泉の国で書についてどんな語りいをされているだろうか。竹田先生は人生の指針であり、私も恥ずかしくないよう研鑽したいと心がけている。



第77回書道芸術院展「静夜思」

石川 溪華 書

書道芸術院 令和の群像 (2024)



桐岡銘紀

「書の文化を次の世代に引き継ぐ」

昨年末、文化庁が「日本の書道」をユネスコの無形文化遺産に提案することを決定した、というニュースを見ました。人生の半分近くを筆、墨、紙と向かい合っていて過ごして来た私にとり、深く心が動いた出来事でした。私は、北海道帯広市で生まれ、戦後の大変な時期を過ごしました。書道家の桑原翠邦先生の出身地であるこの地、国鉄職員だった父は、若い頃、桑原先生に書を教えて頂いていたようで、私の小学校の頃、先生のことを自慢気に話しながら、頂いた軸作品を見せてくれたことを覚えていますが、私も習いたいと思いましたが、父の転勤等の事情で叶いませんでした。大人になり遠

く千葉県八街市に移り住み、市内で書道塾を開いていた杉井芳琴先生を知り、早速入門させて頂きました。杉井芳琴先生は、種谷扇舟先生の門下生で、臨書を中心に幅広く丁寧に指導して下さいました。八街市は、種谷扇舟先生の生誕の地で、当時片山舟泊先生、三浦扇衛先生、杉井芳琴先生が活躍されていた書道の盛んなところです。私が八街に来たのも何かの「縁」かもしれません。子育ての傍ら、睡眠時間を削り稽古に打ちこんだことを思い出します。その後白扇書道会展、書道芸術院展、毎日書道展などに出品するようになり、種谷扇舟先生、種谷萬城先生、辻元大雲先生、飯高和子先生など、白扇会の多くの師に囲まれ成長することができています。

現在も諸先生方に教えを請いながら作品づくりに励むとともに、後進の育成として、ささやかながら開いている書道教室で、通って来る生徒達と向き合う日々です。子どもには、それぞれ個性があり、集中力、器用さ、性格も違います。子どもの眼を見ながら、一人ひとりに説明しながら、お手本を書いて渡します。どれくらい理解しているか見極め、書く枚数もその子に応じて決めます。子どもは性格や様子で判断しますが、とても大切だと思っているからです。子どもにも教え始めて35年余り、その経験や学びの積み重ねで、今の自分があります。お稽古の仕上げとして紙を渡し、今日教わったこと、褒められたこと、気がついたこと、感じたことなどを書かせます。するときれいな字でちゃんと書いてくる子、図解で直された所を示してくる子など、私にとっても勉強になります。提出されたものは、次のお稽古の時に返して見てもらいますが、これは効果があります。どのくらいできるようになっていったか、お手本なしで書かせることも試しています。

現代の子ども達は、スマホやゲームとともに暮らす時代に生きています。字を書くこと自体が減っています。冒頭のユネスコ無形文化遺産への提案決定というニュースは、こんな時代だからこそ、とても感慨深いのです。お稽古を重ねる中で、子ども達が、自分なりに考え、取り組むように成長していく様子が伺え、書くことによって、内面深くに何かが刻まれているのを感じています。

書を継承することは、文化を継承することです。この時代だからこそ、価値はますます大きくなっています。まだまだ勉強の足りない私ですが、書に、子どもに、真摯に向き合い、日本の書道文化を、次の子ども達につないで行く努力を続けたいと考えています。墨の文化が、しっかりと子ども達の中に根付いていくことを願いつつ、今日も放課後の子ども達を待ちます。



第70回毎日書道展 舩千里浜 三好達治の詩

桐岡銘紀書

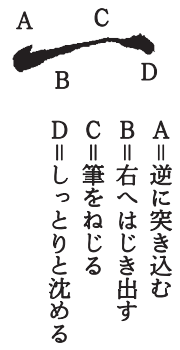
在智猶迷。況乎／佛道崇虛。乘幽／控寂。弘濟萬品。／典御十方。舉威



(東京国立博物館蔵)

古典鑑賞
雁塔聖教序(褚遂良) ②

〔解説〕上田桑鳩はその著「臨書入門」(創元社)において「雁塔聖教序」の技法を種々解説している。その中で今回の課題から拾い上げ、下に示したのは、「方」の横画(突き込み・ねじり)、「品」(縦画の入筆の仕方)である。参考にして下さい。(編集部)



空中での筆勢を受けて入筆。筆がねじれて強くなる。

※掲載図版95%に縮小

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の一部-毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) 当該古典の上記掲載部分以外も可。
(B. 小品の一部-半切 $\frac{1}{2}$ 以上半切以内、全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可(A・B縦横自由))

※特別研究部の課題の範囲に「序記」(高宗選文のほう)は含まれませんのでご注意下さい。

古筆 鑑賞

245

高野切第三種
(伝紀貫之筆)

②

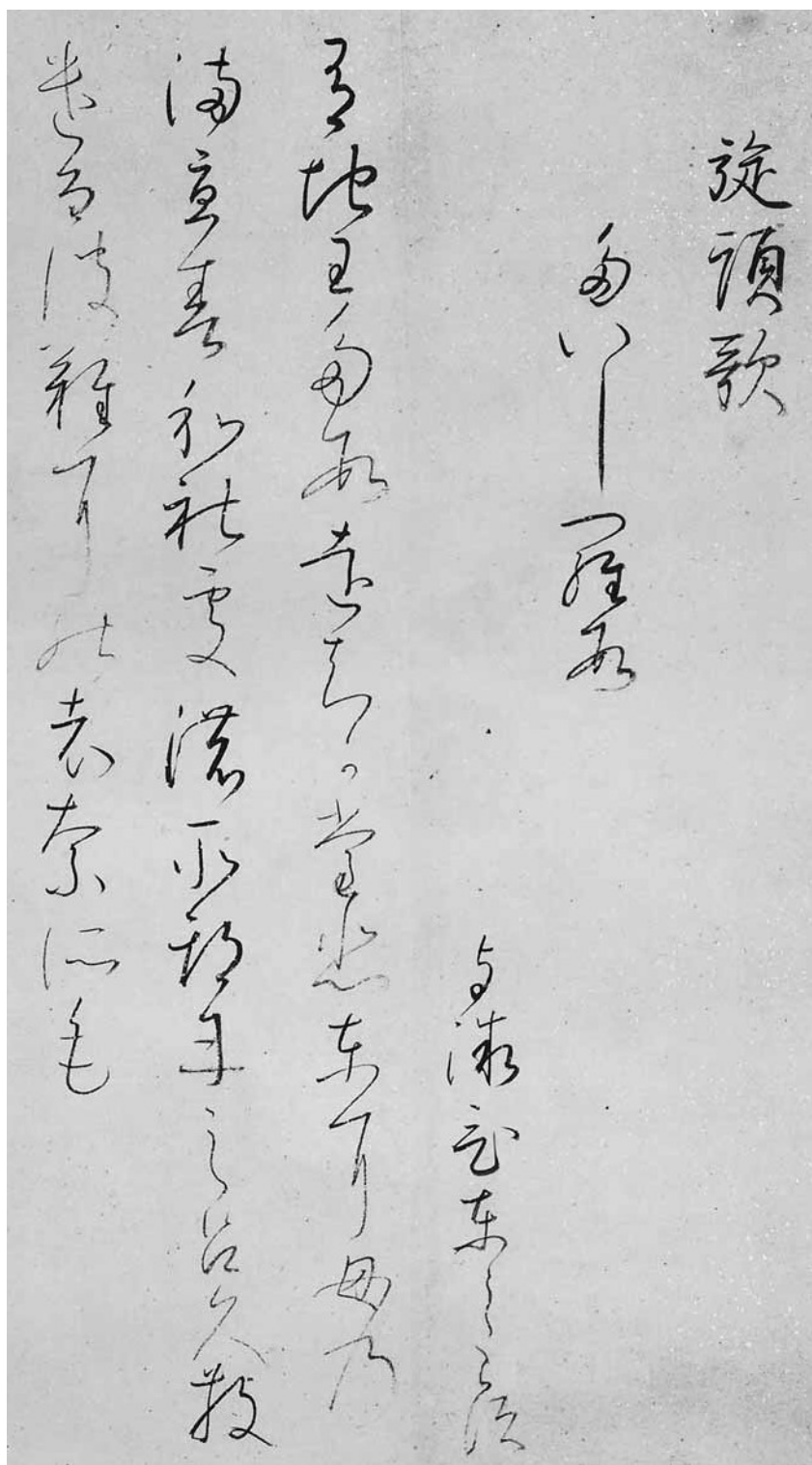
〔解説〕調度品として、歌集を書写し美しく製本することは平安時代の貴人の間で広く行われたが、藤原道長の頃には、その書き方のルールが確立したようだ。その中のひとつに、歌集の一部分を草がなで書くというものがあつた。古筆を臨書してゆくと、突然それまでの書き振りとはうって変わって見慣れない変体がある。

ばかりの歌に出くわすことがあるのは、そのような事情による。
高野切第三種では旋頭歌のうちの2首が草がなで書かれた。決して古い書体ではなく、そのかなと同音の漢字を、書き手の感覚で崩した姿である。王朝貴族の美意識が如実に表れていると言えよう。
(編集部)

旋頭歌

多
地
王
の
ゆ
め
を
な
さ
し
ら
ず
よ
み
び
と
し
ら
ず
う
ち
わ
た
す
を
ち
か
た
び
と
に
も
ま
う
す
わ
れ
そ
の
そ
こ
に
し
ろ
く
さ
け
る
は
な
に
の
は
な
ぞ
も

と
流
心
東
の
流



〔よみ〕旋頭歌／だいしらす／よみびとしらす／うちわたすをかたびとにも／まうすわれそのそこにしろくさ／けるはなにのはなぞも

(個人蔵)

※掲載図版・85%に縮小
(P53に見やすい図版があります)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

かな研究部臨書課題	(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
特別研究部臨書課題	A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B. 小品の部=半切½以上、半切以内(縦横自由)、全紙½以内も可 <いずれも上記の掲載以外も可。>

漢字規定 初段以上 【9月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

坂本素雪選書



風清新葉影

よみ (風は新葉の影に清らかなり)

書体Ⅱ自由

習い方解説 (2)

坂本素雪

風清新葉影 (白居易)

(風は新葉の影に清らかなり)

すがすがしい初夏の風に、萌え出た草木の葉が揺れている。

5文字の草書体にして、アンバランスの字形美とリズムカルな流れを追求する。

「風」 右側に重心を求めたので1画目を左に広く空間をとる。

「清」 1画目をやや右内側にして偏と傍の空間の字形を締める。

「新」 上部2字とも、伸び伸びとした字形なので、小さくならないようにやや横広にして調整する。

「葉」 右上部が重いので、下部で広くして安定させる。

「影」 左の方が画数が多いので軽めの線質にして、右の旁の方で重さ(線の太さや墨量)を調整する。



百折不坐

よみ (百折不坐)

書体 楷書

習い方解説 (2)

稲垣小燕

百折不坐 (近古史談)

(百折不坐)

いくら折れてもくじけない。

度重なる困難にめげず耐え抜くという近世初頭の武士が持つ不屈の精神を表した『近古史談』の中にある言葉ですが、それを感じとれる書跡として「張猛龍碑」が挙げられます。

意志の強さや筆勢の厳しさ、そして自由度が高く豪快で、かつ雄大で堅苦しさの無さが伝わってくるからです。

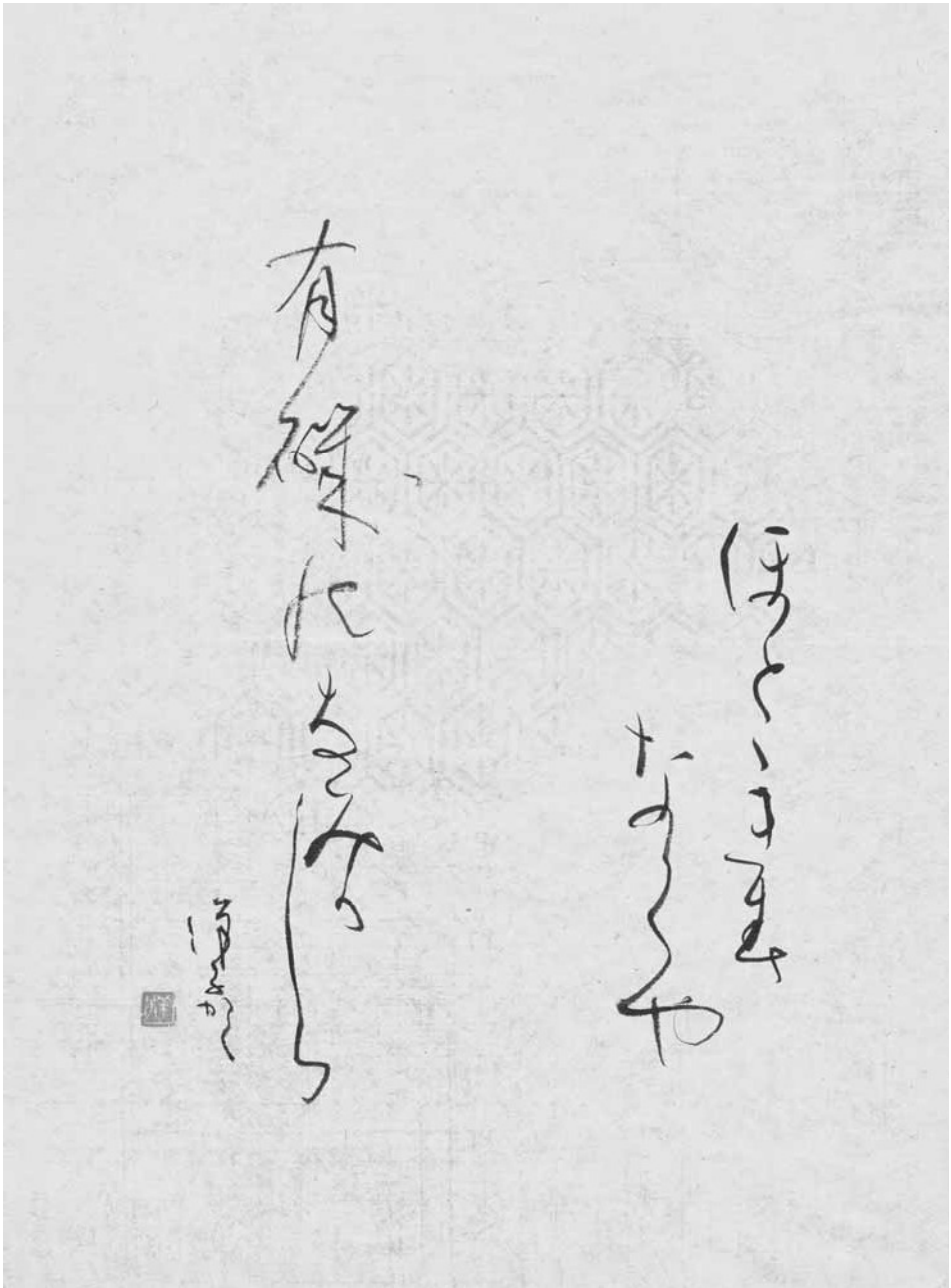
字形は強い右上がりの結体、用筆は逆筆を用いた起筆、転折は突き出すような筆づかい、それらから生まれる強さが見取れる強靱な線が「張猛龍碑」の特徴です。

「百折不坐」の語意が持つ揺るぎない確固たる意思を表現するのにふさわしいでしょう。

今回は初唐の楷書に慣れた初級の方にも親しんでもらえるように書いてみました。これをきっかけに北魏書に取り組んでみて下さい。

かな規定 初段以上 【9月15日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書



よみ方 子規(保とゝき春)啼(な久)や有磯の(能)浪(奈み)が(可)しら

創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切つて下さい。

習い方解説 (2)

下谷 洋子

子規啼や有磯の浪がしら

(加藤暁台)

荒磯に打ちよせる波頭をかすめるように、ほととぎすが一声啼いて通り過ぎた。

書き方は一般的なので、様々に工夫して下さい。文字を変換せず、そのまま書いたものも左に載せました。ほととぎすはここでは子規、他にも郭公・時鳥・杜鵑・不如帰・霍公など約20種類はあるそうですが、私は作者の用いている漢字を生かして書くようにしています。

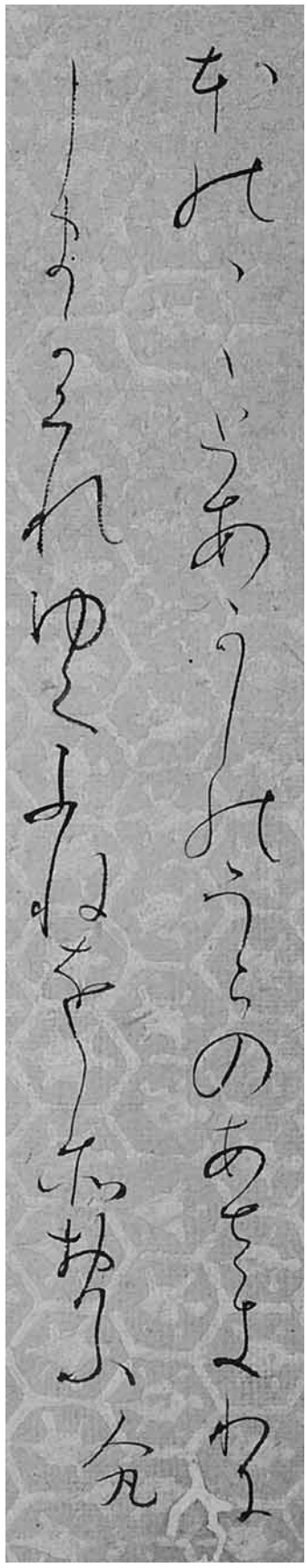
俳句はやゝ大きく大きめに、また墨量の調節にも配慮しましょう。

〈参考〉



かな規定 秀級以下 【9月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1 $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

※2行目下の「人丸」は書かなくてよい。



よみ方 ほの^{本能}なくとあかし^可のうらのあさざり^{文利}に
 しまがくれ^可ゆく^久ふねをしぞおもふ

歌意 ほのぼのと明けはじめた明石の浦の朝霧の中に、はるか遠くの島々に向かって漕ぎ隠れてゆく舟、そのゆくえがしみじみと思われることだ。

かな条幅規定 【9月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可) 見越雪枝選書



よみ方 浮雲の待^万つ^徒事^{こと}もな^那き^支身に^二し^一あれ^連ば^八
 風^可勢^の乃^心こころ^た二^一任^満可^す寸^々遍^らな^奈り^利

創作

※タテ形式に限る

習い方解説 (2)

見越雪枝

浮雲の待^まつ^事もな^まき^身にしあれば
 風の心に任^ます^べらなり
 (良寛)

空に浮かぶ雲のように、何も待つことのない身であるから、庵に帰るかどこに泊まるかは、風の吹くままに任せていることであるよ。
 1行目は字数が多いため文字の広狭で行間の動きを表現しました。誤字のないよう字典を活用しましょう。墨継ぎは「満」です。

漢字条幅規定 初段以上 【9月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

後藤大峰 選書

半窗山色來雲外 一枕荷香帶雨中

書体||自由

半窗山色來雲外 一枕荷香帶雨中 (呉感)
(半窓の山色雲外より来たり。一枕の荷香帶雨の中。)

漢字条幅規定 秀級以下 【9月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小林琴水 選書

國破山河在

書体||自由

國破山河在 (杜甫)
(国破れて山河在り)

習い方解説 (2)

後藤大峰

半切14文字、根底に趙之謙を
いて骨太に力強く書いてみました。
できるだけ動きに注意して書いて
下さい。特に横画の線の「うねり」
を意識し重厚感を出しながら書く
と趙之謙の雰囲気が出出できるの
ではないかと思えます。大胆に思
い切って書作してみして下さい。

※タテ形式に限る

習い方解説 (2)

小林琴水

「國の都はあとかたもなく破壊
されてしまったが、山や河の自然
だけはもとの姿のままである。」
筆先をきかせて線の強さを強調
させて下さい。筆先をリズムにの
せてひねりを入れると線は強くな
ります。

アタリ眩ユキワガ姿、
 フツト寂シクナル時ハ、
 鏡ニ影ノミノコシ置キ、
 真ノ己ハ飛ビ去リヌ。
 白秋詩「肖像」 白琉書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (2)

北村白琉

前号に続き、題材は北原白秋の詩です。今回は漢字とカタカナで構成された詩「肖像」を選びました。「片仮名は折れやすき文字草雲雀：横山悠子」という句もあり、カタカナ表記がこの詩を作った時の白秋の気持ちにぴったりと添ったのでしよう。漢字とカタカナ、ひらがなのどちらが混じる場合も、それぞれが調和することが一番大切だと思います。漢字とかなが一体となった自然の仕上りにするには、漢字よりもかなを少し小さめに書くとういでしょう。前回試みた鄭文公下碑のペンでの臨書を、引き続き行ってから書いてみました。ゆったりとした大らかな書風が少しでも身について、ペン字にも生かせたらと願いながら…。

アタリ眩ユキワガ姿、
 フツト寂シクナル時ハ、
 鏡ニ影ノミノコシ置キ、
 真ノ己ハ飛ビ去リヌ。
 白秋詩「肖像」 ○書

残暑お見舞申し上げます

秋立つとは名ばかりの暑さですが

お変わりございませんか

涼しくなってお目にかかるのを

楽しみにしております

令和六年晩夏

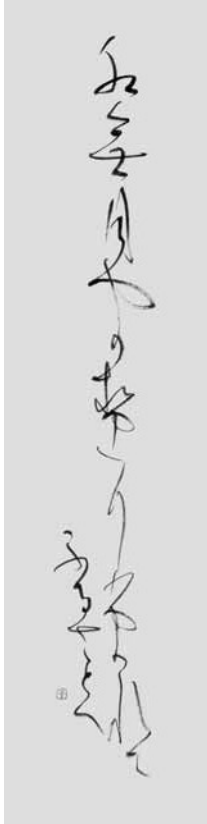
平川峰子

残暑お見舞申し上げます／秋立つとは名ばかりの暑さですが／お変わりございませんか
涼しくなってお目にかかるのを／楽しみにしております／令和六年晩夏／氏名

書体＝自由

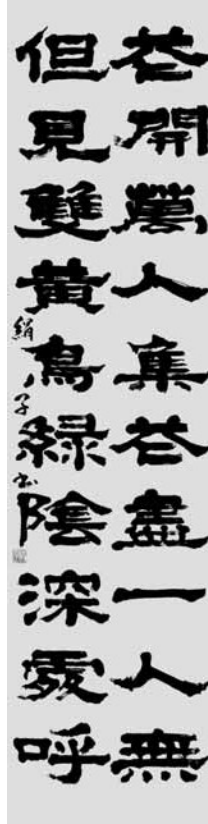
(掲載手本85%に縮小)

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る



かな条幅部 師範 齋藤 杏邑
ぐいぐいと紙にくい込む線と渴筆の表現があいまって見事な作品に仕上がっている。

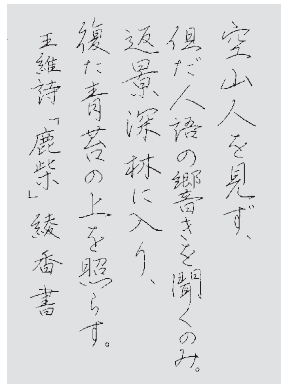
◎かな条幅部総評 線が太すぎたり細すぎたりする作品が多くみられた。墨量の変化、潤濁に気を付けて下さい。(絹子評)



漢字条幅部 師範 東平 絹子
深く厚い筆線に頑健な意志力を感ずる。安定した素朴な運筆の静寂さに闘志を奥に秘めた力作。

◎漢字条幅部総評 条幅作品では気脈の貫通のなかでの種々の工夫が大切。表現に希求するものを持つての鍛練が大切です。(石雲評)

ペン字部 師範 猪野 綾香
漢字かなの絶妙な調和。布置の良さが相まって、壮大な景色の中に素朴さが光る叙情豊かな作品。
◎ペン字部総評 漢字を大きく平がなを控え目に書くことで、字間の変化が生じ、行全体の流れがより良く表現できます。(孝子評)



かな部 師範 儘田由美子
前半と後半のバランスが美しく、潤濁も巧みです。軽やかな渴筆が見せ場になっている。印少々重い。
◎かな部総評 文字の小さい作品が多かった。変体がなを交換する時は誤字に注意。印の大きさは手本を参照して下さい。(洋子評)



前衛書部 特選 高橋 蘭花
シャープな濃濁の細線が丁寧に運筆され、線の間の余白も心地良く、見事な構成力に感銘です。
◎前衛書部総評 創意工夫に溢れた作品が多く感動、用紙への配慮にも心打たれました。(慧香評)



現代詩文書部 特選 山田 京
三つのブロックに構成され句のイメージが響いてくる。墨量の変化大小の文字により余白も美しい。
◎現代詩文書部総評 文意を生かした作が多く好感がもてた。表現を大切に。(鄭雲評)



漢字部 師範 田中 岳舟
濃墨、柔毛筆を用いた渴線が美しい。軽やかな運筆が生む、変化に富んだ柔らかな線が輝いている。
◎漢字部総評 上級は行草書が大 halfで、線質の良否に差が見られた。墨、紙、筆の選定。運筆、用筆の工夫。線の鍛練が大切。(萬城評)

前衛書部 (特選)

現代詩文書部 (特選)



裕子 祥舟 雄一 紫音 久子
 濃濁巧みな筆致で充実
 線を支える十分な余白
 造形が秘める力を予告
 紙面を鋭く切る線が光る
 淡墨の響き合いが新鮮

選評 三森 慧 香

萌佳 美智恵 美朱 美理 明香
 集合体の個性的な表現
 やさしい線が作品が輝く
 横書きだが読み易い工夫有
 紙一杯に動く線を統制
 語彙が強く伝わってくる

四草 都里 美穂 悦子 雄一
 筆力鋭く構成が面白い
 淡墨の文字の集合体が良
 丁寧な筆致・余白も佳
 白と黒・太細が緊張感生む
 哀願する表情が伝わる

選評 田村 鄭 雲

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 後藤大峰 下谷洋子 山口仙草

小品の部

現代詩文書 (宗苑) 白井真理 「初恋」

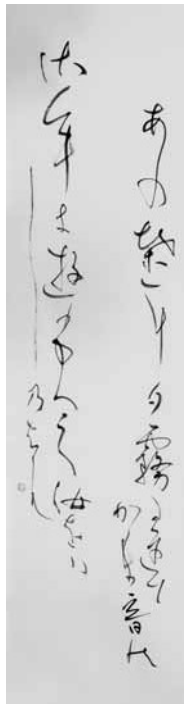


白井真理書

135×35cm

◆羊毛筆の柔らかさを生かした、たおやかな運筆が情趣豊かに展開し、メルヘンチックに表現されている。墨の潤濁の変化が一層奥深さを誘う。
(石雲評)

かな (大雲)
神谷雲卿
「防人の歌」



137×35cm

◆さらっと書き出し、自然な呼吸でまとめて嫌味の無い作品。短い行や、寄り添う行を配して紙面構成を豊かに演出した。もう少し濃があっても……。
(洋子評)

神谷雲卿書

臨書
笨 睦月
「佐理書状・頭弁帖」



135×35cm

◆全体の流れを確実に捉えて原帖を臨書している。少し墨の量が過多の感じはありますがその分、作品が重くなったのは残念ではありません。
(大峰評)

笨 睦月臨

前衛書 (白珠)
高原梨秀
「夢幻」



136×34cm

◆渴筆と直線的な構成の作で余白美もあり、安心して鑑賞することができる。引き締まった強い書線の美しい作となっている。
(仙草評)

高原梨秀書

総出品点数
71点

〈小品の部〉

創作の部(39点)

漢字 7点

かな 2点

現代 0点

篆刻 0点

前衛 10点

臨書の部(32点)

漢字 30点

かな 2点

〈特選候補者〉

(創作の部)

〔漢字〕

四枝 及川 豊流

麗澤 長谷川 翠

〔現代詩〕

千葉 竹浪 叙舟

玄穹 千葉 陽子

植松 梅田 紅雨

玄穹 尾形 紅霞

千葉 平野 笛舟

〔前衛〕

秀水 坂井 初江

紅瑠 松本 秀泉

(臨書の部)

〔漢字〕

英峰 佐藤 桂香

紅瑠 原島 春汀

八街 宮原 雅心

墨縁 井戸端 琉泉

八街 相楽 天翔

華祥 岩淵 俊雄

〔かな〕

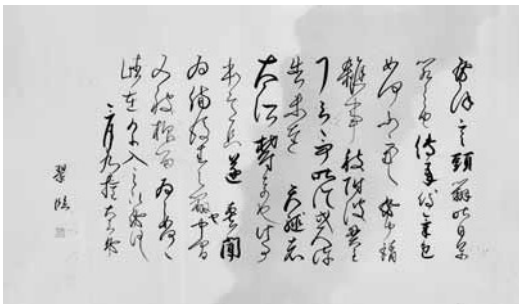
竹美 八木橋 紀舟

大作の部

臨書 (紅瑤)

金井みどり

「佐理書状・頭弁帖」



金井みどり 臨

50×88cm

◆原帖の形意ともに、もう一息の感じはするが真筆に臨書されている。さらに細部にわたって観察眼を養って欲しい。(大峰評)

臨書 (宗苑)

茂木絢水

「高野切第一種」



茂木絢水 臨

90×135cm

部分拡大



◆紙質が原本とはかなり異なるため、線の雰囲気により穏やかになり、清爽感を醸している。渴筆の長い呼吸が見せ所です。(洋子評)

現代詩文書 (八戸) 市川紫泉 「山本清子の詩」



市川紫泉 書

60×180cm

◆線の切れ味のよさが余白を輝やかせ、行間の疎密の変化が詩情を謳いあげて魅力的に仕上げている。小書きの過大を惜しむ。(石雲評)

前衛書 (容洲) 阿部邑里 「そよ風の舞踏会」



阿部邑里 書

60×180cm

◆紙面いっぱい充実した書線が展開され、雄大な安定感のある作品となっている。渴筆の塊が上下に動き爽やかで見応えのある作です。(仙草評)

〈大作の部〉

創作の部(38点)

漢字—3点

かな—6点

現代—8点

前衛—21点

臨書の部(10点)

漢字—9点

かな—1点

総出品点数
48点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

大拙 島中 成山

〔かな〕

玉松 田中 耶衣

水壑 伊澤 香雨

伊呂 鈴木 英晴

〔現代詩〕

誠和 石崎 甘雨

翠苑 佐々木 豊苑

玄穹 石森 光琴

〔前衛〕

月華 浅野 黄扇

月華 鈴木 采紗

松風 西條 松雲

大拙 阿部 俊吾

月華 三塚 倫果

月華 浅野 玉翠

紅瑤 川田 弘子

蓮紅 本田 美雪

蓮紅 大友 紅蓉

(臨書の部)

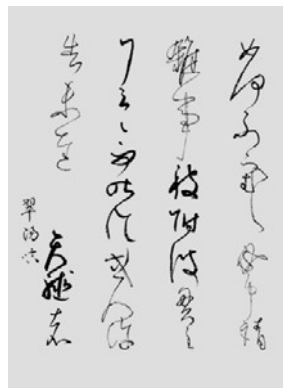
〔漢字〕

樹原 近藤 淑子

漢字研究部
(佐理書状・頭弁帖)

選評 島田白露

今月のホープ作品



加藤翠陽

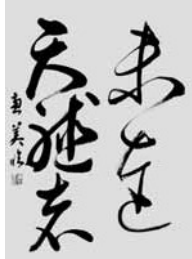
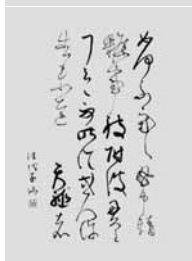
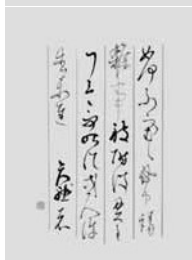
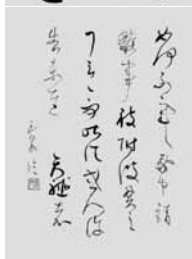
漢字研究部 特選 加藤 翠陽
同じ佐理の書状でも前回の離洛帖とは異なる書きぶりの頭弁帖。原帖をよく観察し落ち着いた温かい書線が美しい。行間を広くとり見栄えがするが、率意の書の活気を求めるならば、さて。

◎漢字研究部総評

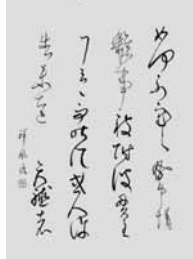
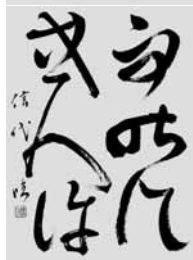
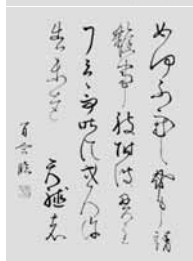
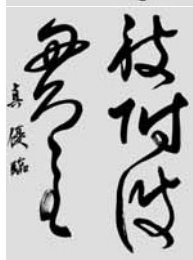
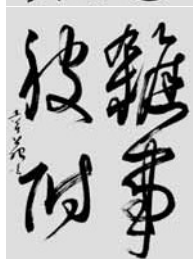
くずした字の骨書きは勉強にはとても助けになりますが、そればかりに頼りすぎると知

らずに違う字を書いてしまうことがあります。活字も時には確認して、文意も念頭において学びたい。また今回の佐理書帖は、漢字の古典ですが和様の書です。かなの書線に近い書き振りの作品と、中国の筆圧の強い書き振りと両方みられ、興味深く見させていただきました。

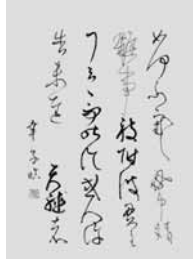
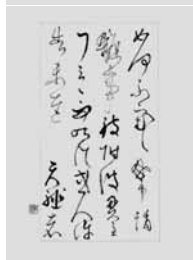
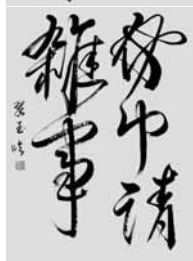
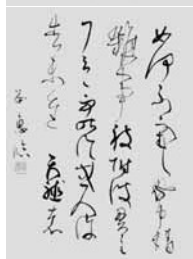
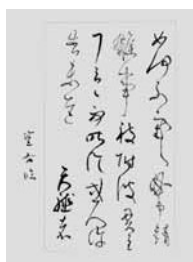
(白露評)



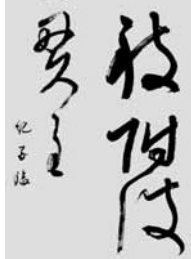
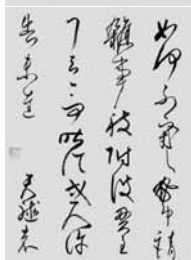
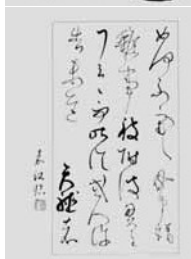
恵香佳裕玉四
代 子 美泉峰
美風子



祥信百真幸菜
合 子 優苑圓
風代子



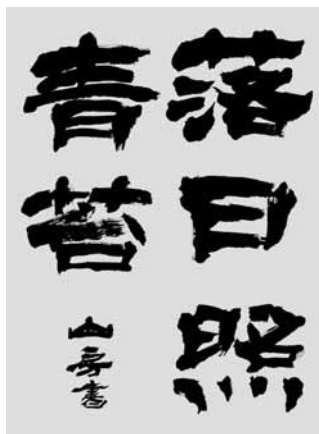
幸梅翠叙谷眞
子 香 玉 孝 惠 右
子 香 玉 孝 惠 右



紀白澄理嘉珠
子 杜 華 扇 江 利

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字37点・かな18点)

選評 種谷萬城・下谷洋子
漢字秀逸作



工藤 山房



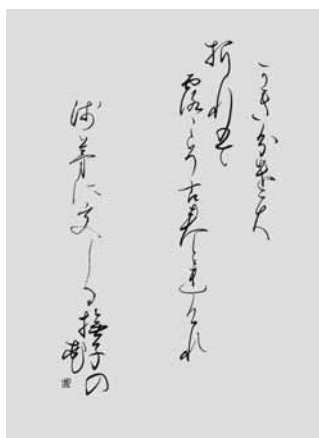
伊澤 香雨



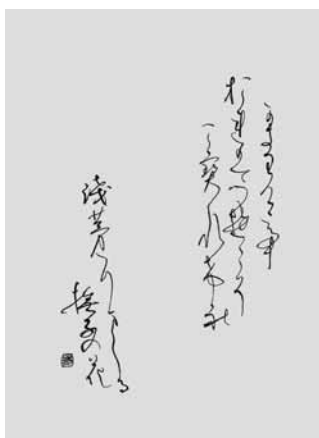
西川 藤象



伊藤 牙城



佐藤 一義



齋藤 杏邑

〈次点・50音順〉

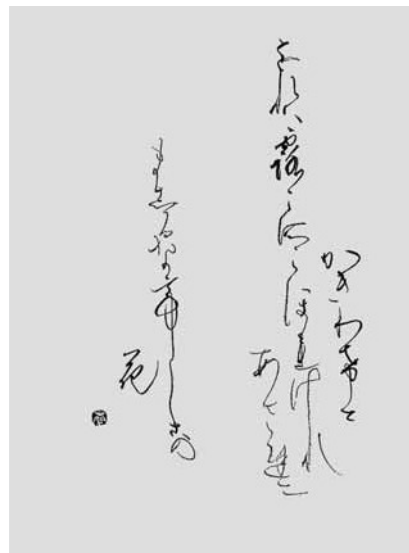
神谷 雲卿



様々な構想による質の高い出品作が集まる中で、最も線が暢びやかでおおらかな作でした。幅広い古典学習の積み重ねを礎とした書線は上質で魅力的。
(萬城評)

かな秀逸作

清水 蘭舟



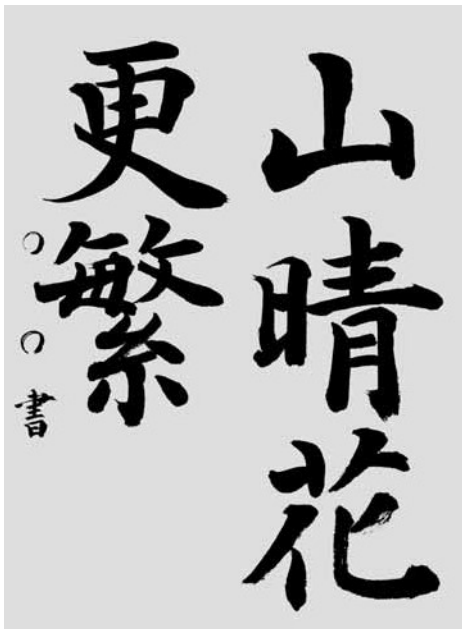
洗練されたタッチで、流れが美しい。しなやかな縦画がポイントとなって、疎密が鮮やかに紙面を彩る。本阿弥切が幽かに薫り、そのため作品に品格をもたらしました。
(洋子評)

〔2024秋季特別昇段級試験参考手本〕

漢字部

第二種

◇創作・楷書



山晴花更繁（山晴れて花更に繁し）

（王安石）

漢字部

第三種

◇創作・行書



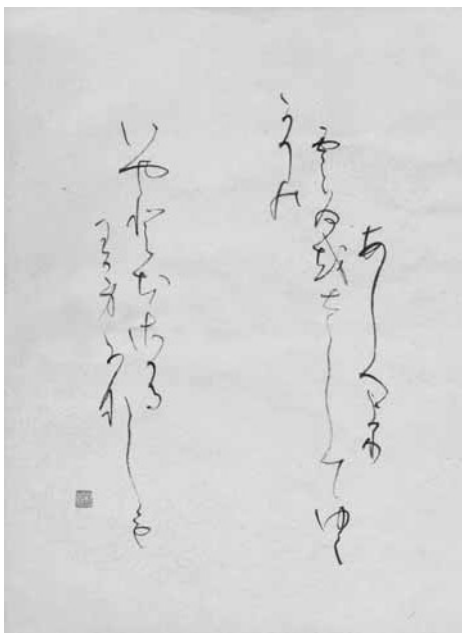
歸來向人說疑是武陵原
（歸來して人に向かいて説く。疑うらくは是れ武陵原）

（王安石）

かな部

第二種

◇創作（和歌）



芦べより雲居をさして行く雁のいや遠さかる我が身かなしも
（よみ人しらす）

よみ方 芦（あし）べより（利）雲居（を）を（越）さして行（ゆ）く（久）雁（可）り
の（能）いや遠（登本）さ（佐）か（可）る我（わ）が（可）身（か）（可）な（那）
し（毛）

◇秋の特別昇段級試験の課題手本（創作作品）を掲載しました。参考にしてください。

漢字条幅部

第一種 ◇創作 (行書または楷書どちらか1枚)

〈楷書〉



先師有遺訓 (先師に遺訓有り)

(陶濬)

〈行書〉



先師有遺訓 (先師に遺訓有り)

(陶濬)

かな条幅部

第一種 ◇創作 (俳句)



波の間に小貝にまじる萩の塵

よみ波の間に小貝にまじる萩の塵(鹿塵寛)

(松尾芭蕉)

交流四水抱城斜 散作千溪通萬家 (陶濬)

(交)も流る四水は城を抱いて斜めに、散して千溪と作って万家に遍し



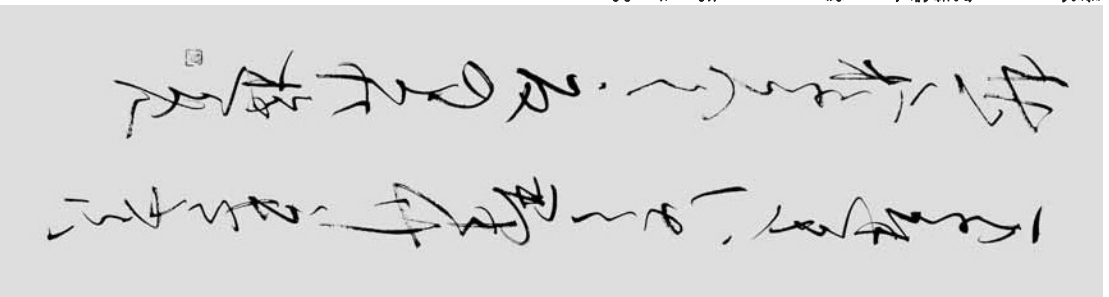
第二種 ◇創作 (行書)

第二種 ◆創作(俳句)



異食むや若く哀しき背を曲けて
 (石田波郷)

◆創作(和歌)



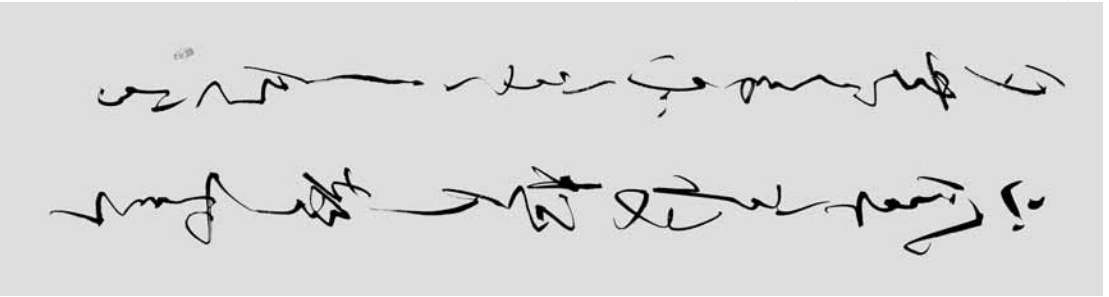
窓近きいとぞ群竹風吹けば秋におどろく夏の夜の夢
 (藤原公継)

第三種 ◆創作(俳句)



あたまで目でかためたる情故
 (中村史郎)

◆創作(和歌)



山風はたかねの松に巨やみて夕の雲を谷にしづまる
 (若林尊氏)

◇楷書

緑は高低の樹に映じ
 紅は遠近の花に迷う
 林間に鶏犬を見る
 直ちに擬す是れ仙家
 元好問の詩を。書

◇行書

緑は高低の樹に映じ
 紅は遠近の花に迷う
 林間に鶏犬を見る
 直ちに擬す是れ仙家
 元好問の詩を。書

◇草書

緑は高低の樹に映じ
 紅は遠近の花に迷う
 林間に鶏犬を見る
 直ちに擬す是れ仙家
 元好問の詩を。書

緑は高低の樹に映じ
 紅は遠近の花に迷う
 林間に鶏犬を見る
 直ちに擬す是れ仙家
 元好問の詩を。書

- 第一種 楷書 (1枚)
- 第二種 楷・行 (計2枚)
- 第三種 楷・行・草 (計3枚)

※臨書作品は、7月号49～54ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

※作品締め切りは9月15日(日)です。

(編集部)

書展

石井明子書作展

東福青筆

会期 令和6年6月25日(火)

30日(日)

会場 鳩居堂画廊3階

石井明子先生の流し染め和紙による書作展が鳩居堂画廊において開催され拝見させていただきました。

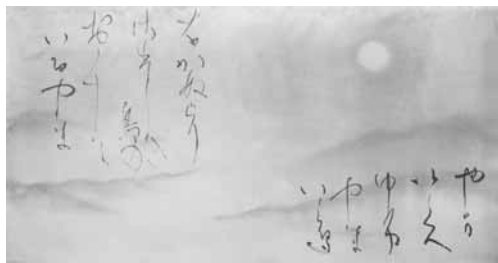
心地よい薫りの華やかな祝花が飾られ石井先生のお人柄そのままの温かな空気に満ちた会場でした。

今回は、元美術刀剣研磨師、研汁けんじゅうの文様を見て技法を考案された流し染め作家藤川真佐夫氏制作の和紙での個展です。研ぎ澄まされた感性で、表現されたかな書美の作品を拝見して石井先生の熱い心に強く心打られました。

会場に入ると右手に、美しい濁線にごせんで西行法師の歌を書かれた春らしい明るい色調の作品。隣りには趣きのある落ち着いた色合いの和紙に「山幾重：」石井直三郎氏の歌を力強く、鮮やかに表現された作品があり心惹かれました。先生のご生家は岡山県矢掛町の国指定重要文化財の矢掛本陣△石井家▽と伺いました。縁戚であられる石井直三



会場風景



石井直三郎氏の歌

郎氏の作品を書かれた句碑も矢掛嵐山公園に建てられています。石井先生の多様な表現、変化に豊かな意欲的な作品を拝見して、自分の感性を大事に育み作品制作に挑むことの大切さを学ばせていただきました。

青蓮・菜園

二人展 in 鎌倉

石崎甘雨

会期 令和6年6月14日(金)

16日(日)

会場 Gallery & Cafe ジャックと豆の木

「約20年前からこの墨を使っています。」

墨の結晶をも宿す大町青蓮先生の唯一無二の墨表現は、まるで太古から地球が育んできた鉱物の美しさまでも滲み込んでいるかのよう。会場で先生の前衛書作品「ゆらぎ」と対峙した瞬間、作品そのものが息づいて、神秘的な瞳に見つめ返されているような気持ちになりました。すでに完成された美学がそこに在りました。

菜園先生の宮城野書人会会長賞受賞作品「虹」も拝むことができました。長鋒筆の鋭い鋒、強靱な線条あってこそ余白美。3歳からお筆を持たれていられるという菜園先生の、豊かさと繊細さを自在に行き来する筆致にも目を奪われました。

会場は鎌倉駅から御成通りを抜けてすぐ、明るいガラス張りにコンクリート打ちっぱなしの壁がとてもモダンな印象のお洒落なカフェギャラリー。店内の中庭を彩る紫陽花に合わせるように、メタリックパープルの墨や紫色の



「ゆらぎ」



「虹」

掛軸がリズムカルに配置され、梅雨入り前という季節感を演出しながら会場全体の美しいハーモニーを奏でておりました。さらには漢字、現代詩文書、臨書作品等。そして子どもの生徒さん作品まで、一度に幅広い作品が拝めるバラエティーに富んだ作品群にも心踊ります。初日にお邪魔しましたが、常にお客様の足の途絶えない大変な盛況ぶりでした。

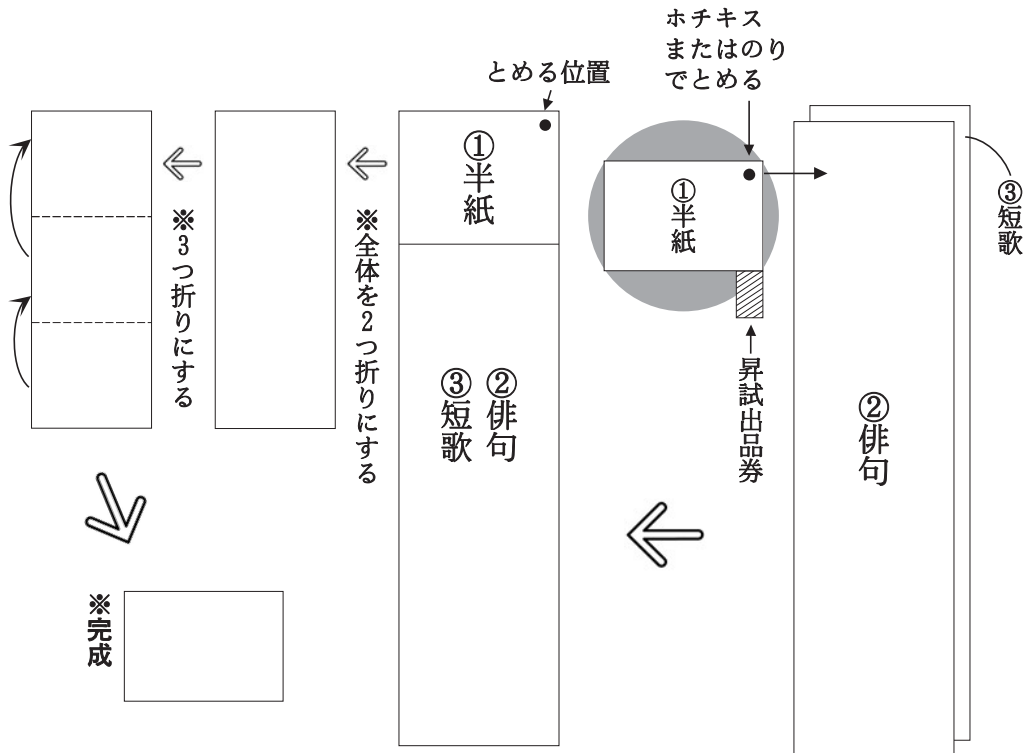
青蓮先生とは初対面でしたが大変お優しく迎えて頂き、菜園先生とは院の作品整理でご縁を頂戴し、そして7歳のお孫さんの在廊ぶりもとても愛らしく、心温まる和やかなひと時に改めて感謝申し上げます。

初となる訪問記のご依頼に戦々恐々としながらも、この胸の高鳴り、作品展の感動をどうか書き留めたい一心で執筆させていただきました。

おふたりの方の一員として、さらなるご活躍を楽しみにしております。ありがとうございます。お待ちしております。



◎特別昇段級試験・かな条幅第三種のまとめ方



〈注〉完成後、使用する封筒に合わせて、さらに折ってもよい。

※半切を2枚重ねてその上に図のように半紙を置き、右上をとめる。

※お願い

書塾等で複数の作品を提出する場合は、ひとりずつ完成させた上で、それらを重ねて下さい。

◇夏季休暇のお知らせ◇

事務所の夏季休暇は

8月10日(土) ~ 15日(木) とさせていただきます。

なお、休暇期間中の郵送物は、16日の午前中に事務所にまとめて届くようになっております。

よろしくお願いいたします。 公益財団法人 書道芸術院

※規定部の「漢字部門・初段以上」と「かな部門・初段以上」に「審査会員の部」があります。出品票に「審査会員」と記入して下さい。

競書出品規定

●規定部

部門	段級位	用紙	書体・内容
漢字	初段以上	半紙	創作(楷書)
漢字	秀級以下	半紙	創作(楷書)
かな	初段以上	半紙	創作
かな	秀級以下	半紙	創作
漢字	初段以上	半紙	創作(楷書)
漢字	秀級以下	半紙	創作(楷書)
漢字	初段以上	半紙	創作(楷書)
漢字	秀級以下	半紙	創作(楷書)

●研究部

部門	用紙	書体・内容
漢字研究	半紙	掲載の古典の臨書、文字数自由(掲載部分以外の箇所は不可)
かな研究	半紙	掲載の古筆の臨書、歌1首以上を書く、全文も可(掲載部分以外の箇所は不可)

●実用書部

△出品規定

- 用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$ (24×16.5cm)、B5コピー用紙縦(26×18.1cm)も可。
- 課題 掲載語句を書く。
- 毛筆小筆、筆ペン、サインペンも可。

※規定部から実用書部までは、月別出品券を貼ったバーコード券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

●特別研究部

△出品規定

- ① 篆刻 △ア、課題による語句
イ、原印は自由
(必ず原印のコピー添付)
- ② 創作 語句は自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。

○印箋については市販のものでも、半紙横 $\frac{1}{2}$ の大きさに切ったものでも可。(上の例参照)

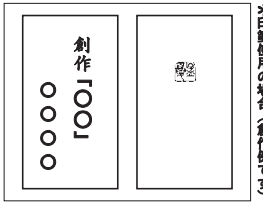
○篆刻と創作の両方に出品することはできない。どちらかを選ぶこと。

●前衛書部

半紙縦使用に限る。

●現代詩文書部

半紙縦使用に限る。



特別研究作品			
B. 小品の部		A. 大作の部	
臨書	創作	臨書	創作
	1. 小画仙半切以内、半切 $\frac{1}{2}$ 以上 2. 全紙 $\frac{1}{2}$ (約68×68cm)以内も可 (縦横自由)	1. 182242cm(8尺)×61cm(2尺) 2. 176185cm(7尺)×58cm(2尺) 3. 121185cm(5尺)×45cm(1尺8寸) 4. 121185cm(5尺)×45cm(1尺8寸) 5. 121185cm(5尺)×45cm(1尺8寸) 6. その他 毎日展一般公募サイズ・全紙も可	○毎日展審査会員・会員サイズ以内 (縦横自由)
	書道芸術掲載研究部 古典鑑賞(漢字研究) 古筆鑑賞(かな研究) ※掲載以外の部分可	漢字・かな・現代詩文書・前衛書の各部門の創作作品競書	漢字・かな・現代詩文書・前衛書の各部門の創作作品競書

※「特別研究部」大作の部・小品の部(創作・臨書) 1人1点出品

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1. 締切日必着厳守
2. 月別出品券を貼付していないバーコード券は認めない
3. 月別出品券のコピーは不可
4. (一)初めて出品のときは「新」
(二)2回目出品のときは10級欄を参照
○印は昇級(1級上の級を書く)
(三)「課題違反」「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※△印段級誤記入
※△印作品審査後着
*記入する数字は、級位は漢数字1、2、3...で書いてください。
*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

☆P7の「高野切第三種（伝紀貫之筆）」の課題を原寸で示しました。ご利用下さい。

旋頂歌

多
り
一
羅
ぬ

与満正东一

多
地
之
ぬ
ぬ
者
ら
、
者
出
东
一
西
一
満
正
春
初
社
支
満
正
初
年
之
呂
久
散
者
奈
に
毛

旋頭歌／多いし羅敷／与微飛東之良須／有地王多数速知可堂悲東耳母乃／満憂春和礼處濃所期丹之呂久散／遺留波難耳能者奈所毛

古筆鑑賞

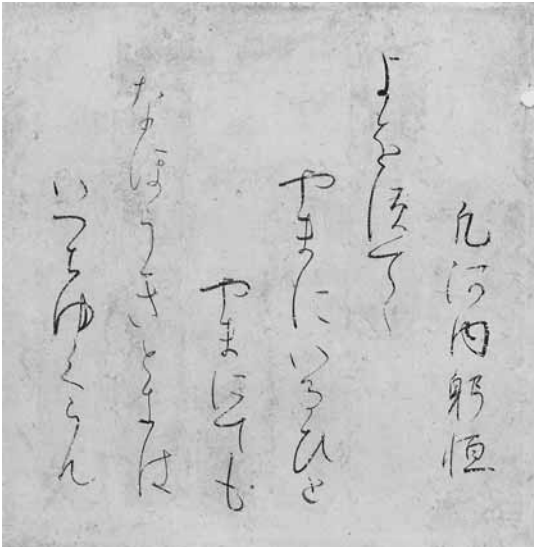
246

高野切第三種 (伝 ^{きのつらゆき}紀貫之筆) ③

古典鑑賞

472

雁塔聖教序 (褚遂良 ^{がんとうしょうぎょうじょ} ^{ちよすいりょう}) ③



(掲載図版・50%に縮小)



(掲載図版・60%に縮小)

〈よみ〉
凡河内躬恒／よをすて／やまに
いと／やまにても／なほうきときは
いづちゆへらむ

大之則彌於宇／宙。細之則攝於／豪
釐。無滅無生。／歷千劫而不古。

特別昇段級試験

一、しめきり日 **9月15日(日)**

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

漢字 一種、二種、三種
かな 一種、二種
漢字条幅 一種、二種
かな条幅 一種、二種、三種
ペン字 一種、二種、三種
かな、漢字条幅の三種は、春季募集となります。

二、応募資格

・一人で幾つの部にも応募できる。

・第一種

現段級が特級〜10級、新規

・第二種

現段級が初段〜3級

(4〜10級の方は受験できない)

・第三種

現段級が準師範〜秀級

(優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、49〜54ページの写真掲載の中から「指定文字数」を臨書。

漢字部

半紙11たて長に使用

第一種 (1枚)

楷 臨書 高貞碑 (掲載部分から5文字を臨書)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 創作 山晴花更繁 (王安石) (山晴れて花更に繁し)

行 臨書 集字聖教序 (掲載部分から12文字を臨書)

第三種 (楷・行・草 計3枚)

楷 臨書 雁塔聖教序 (掲載部分から細字24文字を臨書)

行 創作 歸來向人説

疑是武陵原 (王安石) (雲して天向いて疑、櫻をば武陵原)

草 臨書 十七帖

(掲載部分から6文字を臨書)

かな部

半紙11たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付けも可。

・かな部創作・臨書はともに落款は印のみも可。

・かな・漢字の変更自由。

第一種 (臨 1枚)

臨書 高野切第三種

(半紙1枚に2首を臨書)

第二種 (臨・創 計2枚)

臨書 関戸本古今集

(半紙1枚に全てを臨書)

創作 芦べより雲居をさして行く雁のいや遠さがる我が身かなし (よみ人しらす)

漢字条幅部

小画仙紙半切11たて長に使用

第一種 (1枚)

(行または楷)

創作 先師有三遺訓 (陶潜) (先師に遺訓有り)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 臨書 顔勤礼碑 (掲載部分から14文字を臨書)

行 創作 交流四水抱城斜

散作千溪通萬家 (西元) (交も流るる四水は城を抱いて斜めに、散じて千溪と作って万家に通し)

創作は小画仙紙半切をたて長に使用(料紙可)

臨書は半紙を横長に使用

かな条幅部

・かな条幅部の創作・臨書の落款は印のみも可。

・創作は、かな・漢字の変更自由。

第一種 (創 1枚)

創作 波の間や小貝にまじる萩の塵 (松尾芭蕉)

第二種 (創 計2枚)

創作 栗食むや若く衰しき背を曲げて (石田波郷)

創作 窓近きいささ群竹風吹けば秋におどろく夏の夜の夢 (藤原公経)

第三種 (臨・創 計3枚)

臨書 関戸本古今集

(半紙横1枚に全てを臨書)

創作 あたままで目でかためたる續鈴鼓 (中村史邦)

創作 山風はたかねの松に声やみて夕の雲を谷にしつまる (足利尊氏)

ペン字部

はがきの大きさは縦×10(白)横に使用、黒インク使用。

緑は高低の樹に映じ紅は遠近の花に迷う林間に鶏犬を見る直ちに擬す是れ仙家元好問の詩を ○○書

第一種 楷書 (1枚)

第二種 楷・行 (計2枚)

第三種 楷・行・草 (計3枚)

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

・創作は○○書、臨書は○○臨と書く。

・ただし、かな部・かな条幅部の創作・臨書いずれも印のみも可。

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

◇納入は昇段級試験用振替口座、または現金書留でお願いします。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

七、応募手続

1 出品票は、バーコード出品券を使用し、9月号(70号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)。

一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。

2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりとする。

3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。

5 受験申込み締切は8月22日(木)申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

書道芸術編集部特別昇段級試験係

応募書類は9月1日以後に整理

発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

5

5

5

●篆刻

【9月15日締めきり】

〈出品規定〉

- ① 摹刻 (ア) 課題による語句 (イ) 原印自由 (出品の際、原印のコピー添付)
- ② 創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

8月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



◎出品方法

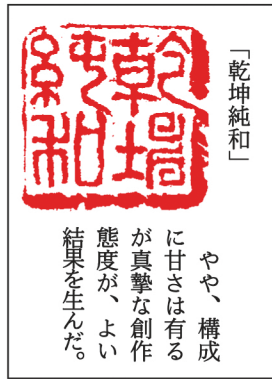
用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

758号篆刻優秀作品

篆刻特選 小野寺 幸喜



創作特選 橋本 清麗



◎篆刻部総評
最近の傾向として出品作の中には構成、運刀等、ある程度の実力を持っている方が多くなってきたが大変、喜ばしい事だと思えます。
(大峰評)

選評 後藤 大峰

(篆刻)		(創作)	
特選	秀作(60音)	特選	秀作(60音)
芳琴 小野寺幸喜	秀作(60音)	やま 橋本 清麗	秀作(60音)
大雲 小沢 華仙	大雲 片岡 豪峰	生大 中島 義則	粹仙 藤井 龍仙
蒼原 庄司 櫻空	蒼原 庄司 櫻空	宗苑 茂木 絢水	宗苑 茂木 絢水
石心 成田 能喜	石心 成田 能喜	唯一 逢沢 唯一	唯一 逢沢 唯一
八街 新料 翠芳	八街 新料 翠芳	遊雲 赤星 文庵	遊雲 赤星 文庵
生大 吉原 進	生大 吉原 進	香書 須賀澤 一起	香書 須賀澤 一起
入選(60音)	入選(60音)	趙雲 吉田 恵弦	趙雲 吉田 恵弦
丸山 加藤 妙子	丸山 加藤 妙子	秀惠 阿部 雅悠	秀惠 阿部 雅悠
八街 佐藤 朱葉	八街 佐藤 朱葉	游水 荒川 裕泉	游水 荒川 裕泉
(選外なし)	(選外なし)	石心 篠田 華所	石心 篠田 華所
		(選外なし)	(選外なし)

今月の注目作 茂木 絢水



昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和六年七月二十五日 印 刷
令和六年八月一日 発 行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七六〇号

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土日祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数がある
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は 送料免除

令和六年七月二十五日印刷
令和六年八月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 発行人 下谷 洋子

印刷 株式会社 リンクス
小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957
振替 0015014135058
ホームページ <http://www.shudo.co.jp/shogof/>